



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 8 月 2 2 日 (木)

発行 館長 加藤 智 一

落葉松

米沢混声合唱団の定期演奏会が 8 月 4 日 (日) にありました。382 名の方々においでいただきました。満席で 600 名位の会場ですので、遠目でみるとほぼ満席に見えるという、上々の入りだったと思います。さて、この演奏会では演奏曲目の中に「落葉松」混声 4 部合唱がございました。軽井沢の自然を愛した野上彰氏による美しい詩。たまたまラジオで耳にしたこの詩に感銘を受けた小林秀雄氏は、これに曲をつけて歌曲にしたいと野上氏に連絡を取ったのですが、そのわずか 1 週間前に野上氏は亡くなっていたというなんとも悲しい逸話の残る曲です。

落葉松の秋の雨に わたしの手が濡れる
 落葉松の夜の雨に わたしの心が濡れる
 落葉松の陽のある雨に わたしの思い出が濡れる
 落葉松の小鳥の雨に わたしの乾いた眼が濡れる

長野県佐久地方の避暑地軽井沢は、明治初期から開発が進められ、その過程で落葉松や赤松が植樹されていきました。毎年 30 万本以上植えられたといえます。

ちなみに、詩人の北原白秋も、大正 10 年、菊子夫人と軽井沢に滞在。強いインスピレーションを受け、同年 11 月、文芸誌「明星」で落葉松を発表しています。

こちらにも生駒道夫、後藤惣一郎、井上武士、長村金二、高橋真一等多くの作曲者が曲を付けているのですが、野上彰、小林秀雄の手による落葉松の方が多くの方々の印象に残っている作品なのではないでしょうか。

落葉松は常緑のものが多くマツ科針葉樹では珍し



く落葉樹です。秋には葉が黄葉します。これは日本産の針葉樹では唯一です。ですから、落葉した葉が落葉松の根本に堆積します。

落葉の分解速度も広葉樹林と比べて遅いそうです。そのせいでしょうか、落葉松の森には下草が少ない。

また一説では、落葉松には何らかのアレロパシー (ある植物が他の植物の生長を抑える物質 (アレロケミカル) を放出したり、あるいは動物や微生物を防いだり、あるいは引き寄せたりする効果の総称) があるとも言われています。

野上氏の詩に表現されている落葉松林の風景は、うっそうとして暑苦しく、いかにも歩きにくそうな森のイメージではなく、落葉松以外の植物はあまり目立たずそこにあり、程よく日差しが差し込み、雨さえも清々しく感じられる森だったのだと推察されます。

こういうところを毎日散歩すると、色んな発想が湧いてくるのでしょうかね。

